

重度の障害をもつ子どもの自立活動指導（その10）

—重度の障害をもつ子どもたちの適切な学習内容表の作成—

Desirable JIRITSUKATSUDOU for Profoundly Multi-Handicapped Children and Youth (10)

井 上 和 美

1. はじめに

現在の日本における重度の肢体不自由と重度の知的障害をもつ子どもの教育では、学習内容は学習指導要領の自立活動領域を中心に組まれている。また、重度の障害をもつ子どもの健康、コミュニケーション、対人関係・社会性、感覚・知覚、摂食、姿勢・移動・手、運動、遊びなどの各発達領域の指導法は、この35年間程でかなり開発されてきた。

しかし、肢体不自由をもつ重度の障害の子ども教育ではどのような内容が適切なのかはよく検討されてきていない。現時点では、教師の経験の積み重ねに基づいて、子どもたちが興味・関心をもつ内容、発達しやすい事項、人として発達していく必要のある事項を考えて、小学部、中学部、高等部ごとに総合的に判断して学習内容、時間割・日課を決めている。また、高等部では、卒業後の社会生活において必要性が高い事項もよく考えて学習内容を決めている。

肢体不自由をもつ重度の障害の子ども教育では、子どもたちの発達のニーズと発達しやすい事項、社会生活のためのニーズと獲得しやすい事項、発達のニーズと社会生活のためのニーズの中子どもたちが興味関心を持ちやすく多くの子どもたちが楽しく行える事項をしっかりと把握した上で、一人ひとりに適切な学習内容とグループ学習における適切な学習内容を設定する必要がある。

また、高等部中心ではなく、小学部、中学部、高等部の各ライフステージにおいて、子どもたちが卒業後の社会生活で楽しく幸せに暮らしていくことを的確に把握し、そのためにかならず必要な事項よく考えて学習内容を設定する必要がある。これは、「ライフステージを踏まえた教育」と呼ばれている。しかし、日本の養護学校ではこれらについて充分と言える状態ではない。

また、近年、養護学校教員の同一学校での継続勤務期間が短くなり、6年～8年で移動する県がほとんどである。肢体不自由養護学校は、1県に1～3校設置されている県が多く、全国的に見ると肢体不自由養護学校間で移動できる教員の数は少ない。さらに、特殊学校と普通学校との人事異動を計画的に実施している県も少なくない。肢体不自由養護学校において、経験豊富な教員が少なくなっている。

以上の二点から、日本の肢体不自由養護学校の教育のために、重度の障害をもつ子どもたちの学習内容表を作成し、教員がそれを参考に教育課程、指導計画を作成・実施できるシステムが不可欠である。

この研究は、この10年間私が考えてきた重度の障害をもつ子どもたちに必要な学習内容、この10年間に自立活動中心の教育課程の学級で私が行ったまたは体験した学習内容のうち、子どもたちにとって必要度の高いかつ子どもたちがよく興味・関心を持ち多くの子どもが楽しく行った内容をまとめることで、日本の養護学校で重度の

障害をもつ子どもたちにより適切でよりよい教育の実施に寄与することを目的としている。

2. 重度の障害をもつ子どもの教育の理念、生きていく力、基本的な学習内容、学習内容の3タイプについて

（1）重度の障害をもつ子どもの教育の理念

重度の障害をもつ子どもたちが、卒業後の生活を楽しく幸せに暮らしていくためには、次の二つの暮らしができることよい。

- 1) 地域の中でいろいろな人との関わりを楽しみながら暮らしていく。
- 2) 自分のペースで自分の望むことを中心に日々の暮らしをしていく。

そのためには、学校教育の12年間に次のことを学び身につける必要がある。

- 1) 生きていく力を身につける。
- 2) 楽しく豊かに毎日暮らす。
- 3) 人としてよく成長していく。

このうち、「生きていく力を身につける」、「楽しく豊かに毎日暮らす」ことは、子どものライフステージを踏まえた事項である。卒業後の生活で「楽しく豊かに毎日暮らす」ためには、今楽しく豊かに毎日暮らしていくようになっていくことが大事である。今楽しく豊かに毎日暮らしていくことが、卒業後の生活で楽しく豊かに毎日暮らすことにつながっていく。

生きていく力は、次の力をできるだけ身に付けていくことが大事である。

（2）生きていく力

自立活動中心の子どもライフステージを踏まえた学習内容（卒業後の生活で「生きていく力」となるもの）は、次の通りであると考えられる。

1) 生きる力

①健康

心身がそれなりに健康であって、生活が楽しめ、いろいろな活動ができる。

②コミュニケーションの力（イエス、ノーを含めて）

重度の肢体不自由者が一番困っていることであり、また自分の暮らしをしていくためにも欠かせない（自己決定）。

③いろいろな体験をする（人や社会や自然などのいろいろな体験）

いろいろな体験が自分の中に入る。新しい体験を受け

入れやすい。やってみたくが増える。

④いろいろな人に会って楽しめる（あまり緊張しない）

人と出会ってその体験を自分のものにできる。

⑤いろいろな場所について楽しめる（はやく慣れる）

新しい場所での体験を自分のものにできる。

⑥好きなこと、楽しめることがいろいろある（いくつかある）

在学しているときの生活と卒業後の日々の生活が豊かになる。趣味ができる。

2) 自分の生活を作り維持していく力

①自分のしたいことを相手に伝えられる。

②嫌なこと、したくないことを相手に伝えられる。

③生活で必要なことでできることは自分でできるように努める。

④生活を楽しむ。

3) 生き抜く力

①嫌なこと、したくないことを相手に伝えられる。

②ある程度きついことが生じても耐えられる、またはやり過ごせる。

「人としてよく成長していく」ことは、全体的に成長・発達していくことと社会人として成長していくことである。

「全体的に成長・発達していくこと」は、広く調和的に成長・発達していくことである。その主な内容は、健康、興味・関心、コミュニケーション、感覚・知覚、遊び、情緒、運動、体・動作、認知、社会性、自然・社会のいろいろな体験である。

「社会人として成長していくこと」は、社会人に向かって努力して歩んでいくことである。社会性（対人関係・集団への適応、しつけ、挨拶）、日常生活（身辺自立、生活習慣）、主体性の面で成長していくこと、必要なことを身に付けることである。

(3) 重度の障害をもつ子どもの基本的な学習内容

以上の事項を踏まえて、重度の障害をもつ子どもの基本的な学習内容をまとめると、次の14項目の内容になる。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1) 健康 | 8) 認知 |
| 2) 興味・関心 | 9) 社会性 |
| 3) コミュニケーション | 10) 主体性・自己決定 |
| 4) 感覚・知覚 | 11) 体・動作 |
| 5) 遊び | 12) 日常生活 |
| 6) 情緒 | 13) 自然・社会の体験 |
| 7) 運動 | 14) 余暇生活 |

(4) 重度の子どもの学習内容の3タイプ

重度の子どもにとって上記の基本的な学習内容は同じであるが、タイプによってその学習内容のウエイトのかけ方が違ってくる。次の3タイプに分けられる。

- 1) 自立活動中心+日常生活指導
- 2) 自立活動中心
- 3) 健康指導中心

元気で体力があり、認知レベルもある程度あり、ある程度動ける子どもは、自立活動中心+日常生活指導の学習が可能である。これらの子どもは、てんかんを除いて健康面での問題は少なく、トイレ、食事、子どもによっては着替え、片付けなどの身辺自立の学習がある程度可能である。

重度の肢体不自由と重度の知的障害をもつ子どもは、自立活動中心の学習が適切である。呼吸、排痰、体力・体調、生活リズムなどの健康面での問題もある程度持っており、身辺自立の学習も排泄、摂食などの一部が可能である。

呼吸が苦しい、痰が常にからんでいる、生活リズムが大きく乱れている、1日中とろとろ眠っている、発作が頻発しているなどの大きな健康障害をもつ子どもは、成長・発達していくためにはまずその大きな健康障害の状態の改善が欠かせない。

教育の基本的理念であるいろいろな領域をバランスよく学習すると、伸びることは困難である。これらの子どもの場合は、バランスよく学習するのではなく、大きな問題である健康障害の状態の改善を中心に取り組む必要がある。

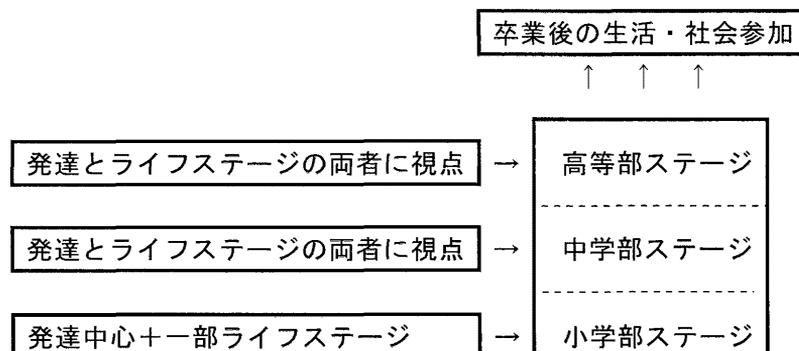


図1 重度の障害をもつ子どもの各ライフステージにおける基本的な考え方（阿南養護学校を改変）

表1 時間割別重度の障害をもつ子どもの学習内容表

時間割名	段階	適切な学習内容
全体を通して		<p>健康の改善：生活リズムの改善（メリハリのある学校生活，できるだけ覚醒して過ごす），体調の維持・改善（健康管理，活動時間・休憩時間の間隔・管理），体力の向上，排痰，体の緊張亢進の防止（姿勢のマネジメントによる），変形・拘縮の防止（姿勢のマネジメントによる）など，安心感・安定感の育成，欲求の充足（教員とのスキンシップ，好きな遊び，外出など），不安感・心理的緊張の減少，気持ちの安定とコントロール，感情のコントロールなど</p> <p>興味・関心の増大：教員，友達，人，遊び，遊具，歌，食べ物，楽器，人形劇・紙芝居・パネルシアター・絵本，おもちゃ，自動車などの社会的物事，水・雨・風・草花などの自然の物事などの種類の増大・質の増大</p> <p>コミュニケーションの向上：言葉の理解，写真カード・シンボルカード（教員・友達，時間割，学習活動（歌，ダンスなど），行事，場所，身の回りのもの）の理解，伝達方法（表情，視線，サイン，発声，発語，指さしなど），伝達能力，三項関係の理解など</p> <p>社会性：教員・友達への興味・関心の増大，親近感，受け入れ，人への不安感・緊張の減少，友達と一緒に楽しく遊ぶなど</p> <p>主体性・自己決定：したい遊び・歌いたい歌・踊りたい相手・呼名の順番の希望などを考える・選択する・伝達する，遊びの繰り返し・中止を伝える，一緒に組みたい教員・友達を決めて伝える（相撲など）など</p> <p>認知：教員，友達，食べ物，遊び，遊具，おもちゃ，楽器，言葉，トイレ，学習時間・学習活動名と内容，写真カード・シンボルカード（教員・友達，時間割，学習活動（歌，ダンスなど），学校内の場所，身の回りのもの）の理解，外出先（公園など），体の部位，食器・車椅子などの身の回りのもの，絵本（いただきますシリーズ，ノタンシリーズ，ころちゃんシリーズ，機関車の絵本（音の），機関車の絵本（男の子に適）など</p> <p>日常生活：挨拶，お礼，あやまる，排泄（排泄習慣，排尿排便後の伝達，排尿排便前の伝達，おむつ換えへの協力），歯磨きの受け入れ，着替えへの協力，水分摂取能力・摂食能力の向上・維持など</p> <p>体・動作：手の使用（カード，スイッチ，絵本をめくる），楽器を使うなど，座位姿勢の保持（姿勢のマネジメントと介助），寝返り・背這い・四つ這いなどによる移動など</p> <p>余暇生活：楽器，おもちゃなどを始めとても好きな遊び・よく楽しめる遊びを増やす</p>
朝の会	I	挨拶，呼名，歌，考える・選択（決定）・伝達（呼名の順番の希望，歌いたい歌，ダンスしたい先生など），ダンス，今日の予定，ごっこ遊び（劇ごっこなど）など
遊び	I	プール，水遊び（小プール），歌遊び，揺れ遊び（エアートランポリン，シーツブランコ，ブランコ，トランポリン），滑り遊び（坂，スロープ），パラシュート遊び，相撲，電車ごっこ（台車を数台つなぐ），台車遊び，ボールプール遊び，手遊び，キーボード，ギターなどの楽器遊び，劇遊び，人形劇遊び，おもちゃ（黒ひげくん，クルクルクルリン，ボール投げマシン，電動の犬，自動車など）遊び，ストーリー遊び（「ひょっこりひょうたん島ごっこ」，「ハワイにいこう」など，エアートランポリン，パラシュート，海と嵐と雷の効果音，スポットライト，ストーリーに合う歌を使用），影絵，光遊び，火花（パソコンソフト使用）など
	II	しゃぼん玉遊び，ブラックライト遊びなど
音楽，歌・リズム	I	歌，わらべ歌遊び（「かごめかごめ」など），歌遊び（「あぶくたつた」など），楽器遊び（「音を探そう」（多数の楽器から好きな楽器を選んで演奏する・みんなで演奏する），ダンス（太鼓の演奏で踊る，曲ののって踊る），手遊び歌，ハンドベル・鈴の合奏など
運動，体育	I	プール，エアートランポリン，ダンス，ブランコ遊び，滑り遊び（坂，スロープ），滑り台，台車遊び，シーツブランコ，相撲遊び，かけっこ・リレー，パラシュート遊びなど
	II	風船バレーなど
料理	I	包丁，皮むき，まな板，ミキサーなど使用。おいもシリーズ（さつまいも，じゃがいも，里芋使用。蒸かしいも，大学いも，スイートポテト，きんとん，フライドポテト，じゃがいももち。炒める，揚げる，天ぷらなど），おだんごシリーズ（みたらしだんご，おはぎ，白玉，桜もちなど），果物・野菜シリーズ（バナナ，いちご，きゅうり，トマトなど。ジュース作り，バナナムース，バナナフランク，いちごムース，いちごジャム，いちごパフェ，びわジャムなど），卵シリーズ（目玉焼き，オムレツ，ゆで卵），おかずシリーズ（ソフトハンバーグなど），小麦粉遊び（ケーキ，クッキー）など
歌・お話，お話，劇遊び	I	人形劇（赤ずきん，三匹のこぶたなど），紙芝居・絵本（おおかみと七匹のこやぎ，桃太郎，さるかに合戦，おむすびころりん，ボールポン，よいしょよいしょ，おおきなあれ，ひーらいひーらいなど），劇遊び（大きなかぶ，赤ずきん，さるかに合戦など），パネルシアター（大きなかぶ，赤ずきん，三匹のこぶたなど）など
散歩，外出	I	公園（ブランコ，滑り台など），ファミリーレストラン（ジュース，アイスクリームなど），スーパー（買い物），地下鉄，動いている自動車・オートバイを見るなど
	II	コンビニ・デパート・100円ショップ（買い物），園芸店（買い物），図書館，路上・公園の花・雑草・植物を見る・触る・匂いをかぐ，公園で遊んでいる子どもを見るなど
生活，生活単元学習（描く・作る，図工を含む）	I	苗植え（さつまいも，トマト，きゅうりなど），トマト・きゅうりの収穫ジュース作り，おかし作り，誕生会（ファミリーレストランに行く），買い物（スーパー），運動会の練習，文化祭の練習，遠足・社会見学の事前学習・事後学習など 茶碗作り（電動ろくろ使用），フィンガーペインティング（専用絵の具使用）
	II	トマト・きゅうり育てなど ポスター作り（運動会，文化祭），運動会の装飾作り，クレープ紙を破る・貼る，粘土遊び（紙粘土，粘土，小麦粉粘土（食紅使用），吹き付けの絵作り（色水のスプレー，シーツ・画用紙），秋（色づいた葉，木の枝，秋の花を集め紙に貼り付ける），こいのぼり作りなど
個別学習		個別の発達領域の内容表から学習内容を選択して実施する。その内容に，個別の発達領域の内容表以

	外から個別のニーズに対応した学習内容を加えて実施する。
給食	スプーンで食べる、食べたいものを伝える、誤嚥の減少、咀嚼力の向上、食形態のアップ、水分摂取能力の向上、食べられる食物が増える、コップをもって飲む、食事時間の短縮など
自立活動	コミュニケーション：働きかけると笑う、発声、挨拶・呼名・声かけへの返事、言葉の理解、写真カード・シンボルカード（教員・友達、時間割、学習活動（歌、ダンスなど）、場所、身の回りのもの）の理解、伝達方法（表情、視線、サイン、発声、発語、手の動き、体の動き、指さしなど）、伝達能力の向上（越えかけに対する適切な反応、声、手の動き、体の動きの明確化など）、三項関係の理解など 認知：教員、友達、食べ物、遊び、遊具、おもちゃ、楽器、言葉、トイレ、学習時間・学習活動名と内容、写真カード・シンボルカード（教員・友達、時間割、学習活動（歌、ダンスなど）、学校内の場所、身の回りのもの）の理解、外出先（公園など）、体の部位、食器・車椅子などの身の回りのもの、絵本（いただきますシリーズ、ノンタンシリーズ、ころちゃんシリーズ、機関車の絵本（音の音の）、機関車の絵本（男の子に適）、写真カード・シンボルカード（教員・友達など） 健康：呼吸の改善、排痰の改善、体の緊張亢進の防止（体のリラクゼーションなどの学習による）、変形・拘縮の防止（体のリラクゼーション学習、他動による関節の動きなどによる）など、安心感・安定感の育成、欲求の充足（教員とのスキンシップ、好きな遊び、外出など）、不安感・心理的緊張の減少など 感覚・知覚：揺れ遊び（エアートランポリン、シーツブランコ、ブランコ、トランポリン）、滑り遊び（坂、スロープ）手指の遊び、手遊び歌、光遊びなど 体・動作：必要な体各部のリラクゼーション学習 手：スイッチ操作（ラジカセ、電動の犬、ボール投げマシン、自動車）、キーボード、ギターなどの楽器遊び、おもちゃ（黒ひげくん、コロコロコロリンなど）など 姿勢：あぐら座位の保持 練習、うつ伏せ、側臥位、楽な背臥位、四つ這い位、膝立ちなど 移動：寝返り、背這い、擦り這い、四つ這い、膝立ち移動、SRCウォーカー移動など
行事	お誕生会、1年生を迎える会、こいのぼり、七夕、夏祭り（すいか割りなど）、焼き芋集会、クリスマス、お正月、豆まき、ひな祭り、卒業生を送る会、遠足、社会見学、文化祭、運動会、キャンプ、地音楽会、地域の学校との交流、始業式、終業式、入学式、卒業式

I：80%～100%の子どもが楽しく行えた学習内容 II：50%～80%の子どもが楽しく行えた学習内容

全ての子どもは、遊んだり学習したりして成長し、発達していく。しかし、遊んだり、学習するためには、一定程度の体力、気力が必要である。つまり、一定以上の心身のエネルギーが必要である。しかし、大きな健康障害をもつ子どもは、体力、体調、エネルギーのうち日々生きていくためのエネルギー消費以外の部分が大きく不十分となっている。つまり、遊んだり、学習するためのエネルギーが大きく不足している。中には、重度呼吸不全の子どものように、最低の酸素量の確保し日々生きていくためにその子のもつエネルギーのほとんどを使っている子どももいる。

子どもが、成長・発達していくためには一定の健康障害の状態の改善が必要である。ただ、教育の力では、改善が困難な健康障害も少なくない。

3. 重度の障害をもつ子どもの具体的な学習内容の設定の仕方

重度の肢体不自由をもつ子どもの基本的な学習内容は、表1に示した通りである。しかし、日本では強いグループ主義（集団による学習）があり、その点で欧米先進諸国と異なっている。個別指導の時間の増加、集団指導時間の減少を行うとともに、個別の発達領域別の学習内容・目標の設定・評価と集団・個別の両方がある時間割別の学習内容・目標の設定・評価の二つが必要である（井上2004）。

ここでは、集団・個別の両方がある時間割別の学習内容（表1）と個別の発達領域別の学習内容（表2）の二

つの内容表を作成し提示する。

（1）時間割別重度の子どもの適切な学習内容表（表1）について

時間割別の適切な学習内容は、全体を通して、朝の会、遊び、音楽（歌・リズム）、運動（体育）、料理、歌・お話（お話、劇遊び）、散歩（外出）、生活（生活単元学習）、個別学習、給食、自立活動の12項目と行事とした。かつこ内は、その学習内容に対して他校で見られる名称の例である。この表に、この10年間で私が体験した、多くの子どもが興味・関心をもって楽しく学習した具体的な内容をまとめた。なお、「段階」欄のI、IIは、それぞれ80%～100%の子どもが楽しく行えた学習内容と50%～80%の子どもが楽しく行えた学習内容を表している。

料理は、準備、後片付けに時間がかかり、また包丁、皮むき、ガスコンロ、ホットプレート、フライパン、鍋、油、ミキサーなどを使うので、安全管理によく注意を払う必要があった。かなり労力が必要であるが、よく知っている食べ物であること、試食すること、身近であることのために子どもたちの関心とモチベーションは高い。また、触覚、視覚、嗅覚、味覚、聴覚の五感をよく使う、手をよく使うので、描く・作る（図工）の学習よりもよりもトータルで優れている。料理を重度の子どもにとって適切な学習内容として推薦したい。

描く・作る（図工）は、重度の子どもの学習内容としてはあまり適していない。80%以上の子どもが、興味をもって楽しく学習できた内容は、茶碗作り（電動ろくろ使用）、フィンガーペインティング（専用絵の具使用）

表2 発達領域別重度の障害をもつ子どもたちの学習内容表

発達領域	段階	適切な学習内容
健康		生活リズムの改善（メリハリのある学校生活、できるだけ覚醒して過ごす）、体調の維持・改善、体力の向上（運動・睡眠など）、呼吸・排痰の改善（姿勢のマネジメントと体の学習による）、体の緊張亢進の防止（姿勢のマネジメントと体の学習による）、変形・拘縮の改善・発生防止・進行防止（姿勢のマネジメントと体の学習による）、便秘の改善など。 情緒の安定・心理的安定（安心感・安定感の育成、欲求の充足（教員とのスキンシップ、好きな遊びをする、外出など）、不安感・心理的緊張の減少、気持ちの安定とコントロール、感情のコントロールなど）
興味・関心		教員、友達、人、遊び、遊具、歌、食べ物、楽器、人形劇・紙芝居・ペープサート、おもちゃ、自動車などの社会的物事、水・雨・風・草花などの自然の物事の種類と質の増大など
コミュニケーション		働きかけると笑う、発声、挨拶・呼名・声かけへの返事、言葉の理解、写真カード・シンボルカード（教員・友達、時間割、学習活動（歌、ダンスなど）、場所、身の回りのもの）の理解、伝達方法（表情、視線、サイン、発声、発語、手の動き、体の動き、指さしなど）、伝達能力の向上（声かけに対する適切な反応、声、手の動き、体の動きの明確化など）、三項関係の理解など
感覚・知覚	I	プール、水遊び（小プール）、歌遊び、揺れ遊び（エアートランポリン、シーツブランコ、ブランコ、トランポリン）、滑り遊び（坂、スロープ）、パラシュート遊び、ボールプール遊び、手指の遊び、手遊び歌、キーボード、ギターなどの楽器遊び、ストーリー遊び（「ひよっこりひょうたん島ごっこ」、「ハワイにいこう」など、エアートランポリン、パラシュート、海と嵐と雷の効果音、スポットライト、ストーリーに合う歌を使用）など 茶碗作り（電動ろくろ使用）、フィンガーペインティング（専用絵の具使用）、影絵、光遊び、花火（パソコンソフト使用）など
	II	粘土遊び（紙粘土、粘土、小麦粉粘土（食紅使用））、ブラックライト遊び、小麦粉遊び（ケーキ、クッキー）など
遊び	I	いろいろな遊びを楽しめる。水遊び（小プール）、歌遊び、揺れ遊び（エアートランポリン、シーツブランコ、ブランコ、トランポリン）、滑り遊び（坂、スロープ）、パラシュート遊び、電車ごっこ（台車を数台つなぐ）、ボールプール遊び、手遊び、キーボード、ギターなどの楽器遊び、劇遊び、人形劇遊び、おもちゃ（黒ひげくん、クルクルルリン、ボール投げマシーン、電動の犬、自動車など）遊び、ストーリー遊び（「ひよっこりひょうたん島ごっこ」、「ハワイにいこう」など、エアートランポリン、パラシュート、海と嵐と雷の効果音、スポットライト、ストーリーに合う歌を使用）など
	II	しゃぼん玉遊び、ブラックライトの遊びなど
情緒	I	歌、わらべ歌遊び（「かごめかごめ」など）、歌遊び（「あぶくたつた」など）、楽器遊び（「音を探そう」（多数の楽器から好きな楽器を選んで演奏する・みんなで演奏する））、ダンス（太鼓の演奏で踊る、曲のつて踊る）、手遊び歌など 人形劇（赤ずきん、三匹のこぶたなど）、紙芝居・絵本（おおかみと七匹のこやぎ、桃太郎、さるかに合戦、おむすびころりん、ボールボン、よいしょよいしょなど）、劇遊び（大きなかぶ、赤ずきん、さるかに合戦など）、パネルシアター（大きなかぶ、赤ずきん、三匹のこぶたなど）など 茶碗作り（電動ろくろ使用）、フィンガーペインティング（専用絵の具使用） 教員・友達と一緒に楽しく遊ぶ、水遊び（小プール）、歌遊び、揺れ遊び（エアートランポリン、シーツブランコ、ブランコ、トランポリン）、滑り遊び（坂、スロープ）、パラシュート遊び、電車ごっこ、ボールプール遊び、手遊び、キーボード、ギターなどの楽器遊び、劇遊び、人形劇遊び、おもちゃ（黒ひげくん、クルクルルリン、ボール投げマシーン、電動の犬など）遊び、ストーリー遊び（「ひよっこりひょうたん島ごっこ」、「ハワイにいこう」など、エアートランポリン、パラシュート、海と嵐と雷の効果音、スポットライト、ストーリーに合う歌を使用）など
	II	しゃぼん玉遊び、ブラックライトの遊びなど ポスター作り（運動会、文化祭）、運動会の装飾作り、粘土遊び（紙粘土、粘土）、吹き付けの絵作り（色水のスプレー、シーツ・画用紙）、秋（色づいた葉、木の枝、秋の花を採集して画用紙に貼り付ける）など
運動	I	プール、エアートランポリン、ダンス、ブランコ遊び、滑り遊び（坂、スロープ）、滑り台遊び、台車遊び、シーツブランコ、相撲遊び、かけっこ・リレー、パラシュート遊びなど
	II	風船バレーなど
認知		人・物：教員、友達、食べ物、遊び、遊具、おもちゃ、楽器、言葉、身近自立（排泄・トイレ、着替え、歯磨きなど）、学習時間・学習活動名と内容、写真カード・シンボルカード（教員・友達、時間割、学習活動（歌、ダンスなど）、学校内の場所、食器・車椅子など身の回りのもの）の理解、体の部位など 絵本など：絵本（いただきますシリーズ、ノンタンシリーズ、ころちゃんシリーズ、機関車の絵本（音のでる）、機関車の絵本（男の子に適）など）、人形劇（赤ずきん、三匹のこぶたなど）、紙芝居・絵本（おおかみと七匹のこやぎ、桃太郎、さるかに合戦、おむすびころりん、ボールボン、よいしょよいしょ、おおきなあれなど）、劇遊び（大きなかぶ、赤ずきん、さるかに合戦など）、パネルシアター（大きなかぶ、赤ずきん、三匹のこぶたなど）など 買い物・外出：ファミリーレストラン、スーパー、地下鉄、動いている自動車・オートバイを見る、公園、ブランコ、滑り台など
社会性		教員・友達への興味・関心の増大、親近感、受け入れ、人への不安感・緊張の減少、友達と一緒に楽しく遊ぶなど
主体性・自己決定		したい遊び、歌いたい歌、踊りたい相手、呼名の順番の希望などを考える・選択する・伝達する、遊びの継続・中止を伝える、遊びたい友達を決めて伝える（相撲など）など
体・動作	I	必要な体各部のリラクゼーション学習

		手：包丁、皮むき、まな板、ミキサーなど使用。おいもシリーズ（さつまいも、じゃがいも、里芋使用。蒸かしいも、大学いも、スイートポテト、きんとん、フライドポテト、じゃがいももち。炒める、揚げる、天ぷらなど）、おだんごシリーズ（みたらしだんご、おはぎ、白玉、桜もち、など）、果物・野菜シリーズ（バナナ、いちご、きゅうり、トマトなど。ジュース作り、バナナムース、バナナフランペ、いちごムース、いちごジャム、いちごパフェ、びわジャムなど）、卵シリーズ（目玉焼き、オムレツ、ゆで卵）、おかずシリーズ（ソフトハンバーグなど）、ケーキ作りなど茶碗作り（電動ろくろ使用）、フィンガーペインティング（専用絵の具使用）、スイッチ操作（ラジカセ、電動の犬、ボール投げマシン、自動車）、キーボード・ギター遊び、おもちゃ（黒ひげくん、コロコロコロリンなど）など 姿勢：楽ないす座位の保持（姿勢のマネジエメントと介助）と練習、あぐら座位の保持練習、うつ伏せ、側臥位、楽な背臥位、四つ這い位、膝立ちなど 移動：寝返り、背這い、擦り這い、四つ這い、膝立ち移動、SRC ウォーカー移動など
	II	手：ポスター作り（運動会、文化祭）、運動会の装飾作り、クレープ紙を破る・貼る、粘土遊び（紙粘土、粘土、小麦粉粘土（食紅使用））、吹き付けの絵作り（色水のスプレー、シート・画用紙）、秋の作品（色づいた葉、木の枝、秋の花を集め紙に貼り付ける、こいのぼり作りなど
日常生活		挨拶、お礼、あやまる、排泄（排泄習慣、排尿排便後の伝達、排尿排便前の伝達、おむつ換えへの協力）、歯磨きの受け入れ・協力、着替えへの協力、水分摂取能力・摂食能力の向上・維持など
自然・社会の体験	I	料理：包丁、皮むき、まな板、ミキサーなど使用。おいもシリーズ（さつまいも、じゃがいも、里芋使用。蒸かしいも、大学いも、スイートポテト、きんとん、フライドポテト、じゃがいももち。炒める、揚げる、天ぷらなど）、おだんごシリーズ（みたらしだんご、おはぎ、白玉、桜もち、など）、果物・野菜シリーズ（バナナ、いちご、きゅうり、トマトなど。ジュース作り、バナナムース、バナナフランペ、いちごムース、いちごジャム、いちごパフェ、びわジャムなど）、卵シリーズ（目玉焼き、オムレツ、ゆで卵）、おかずシリーズ（ソフトハンバーグなど）、小麦粉遊び（ケーキ、クッキー）、かき氷作りなど 苗植え（さつまいも、トマト、きゅうりなど）、トマト・きゅうりの収穫・試食、さつまいもの収穫、誕生会（ファミリーレストランに行く）、買い物（スーパー）、運動会の練習、文化祭の練習、遠足・社会見学の事前学習・事後学習など 公園（ブランコ、滑り台など）、ファミリーレストラン（ジュース、アイスクリームなど）、スーパー（買い物）、地下鉄、動いている自動車・オートバイを見るなど お誕生会、1年生を迎える会、こいのぼり、七夕、夏祭り（すいか割りなど）、焼き芋集会、クリスマス、お正月、豆まき、ひな祭り、卒業生を送る会、遠足、社会見学、文化祭、運動会、キャンプ、地域の学校との交流
	II	トマト・きゅうり育てなど
余暇生活		楽器、おもちゃ、遊具遊びなどを始めとても好きな遊び・よく楽しめる遊びを増やす

I：80%～100%の子どもが楽しく行えた学習内容 II：50%～80%の子どもが楽しく行えた学習内容

の二つだけであった。どちらも、指や手の触覚の楽しさが、持続的に入ってくるものであった。

描く・作る（図工）は、子どもたちの興味・関心を強く引くことが難しい学習内容である。IよりもIIの方に、学習内容が多く入っていることから他の項目より適切さが低いことが理解できる。この描く・作る（図工）学習は、知的障害養護学校の代替の教育課程対象の子どもたちには実施可能な学習内容であるが、自立活動中心の教育課程が適している子どもたちには実施しなくてもよい学習内容だと言える。描く・作る（図工）学習は、時間割の中に恒常的に設けず、必要なときに必要な分だけ行う仕方が適している。

私たちは、この学習を2004年度から時間割からなくし、生活（生活単元学習）の時間で扱うようにして、運動会、学校祭の行事ポスター、学級の仲間紹介などときどき必要な内容だけを行った。

自立活動の時間は、他に適切な名称が見つからなかったのでこの名称にした。この時間は、集団による学習では充分行えない内容も含めて学習指導要領の自立活動の一部の学習を行う時間である。内容は、準ずる教育、知的障害の代替の教育で行われている自立活動とかなり重なっている。個別学習の時間との違いは、個別学習に比べて自立活動の方が学習内容の範囲がより狭くなって

ることである。

（2）発達領域別重度の子ども適切な学習内容表（表2）について

発達領域別の適切な学習内容は、健康、興味・関心、コミュニケーション、感覚・知覚、遊び、情緒、運動、認知、社会性、主体性・自己決定、体・動作、日常生活、自然・社会の体験、余暇生活の14項目とした。

余暇生活は、小学部では一応押さえておいて、中学部、高等部でしっかり取り組めばよいと考える。小学部ステージでは、とくにこの項目を設定しなくてもよいだろう。なお、段階欄のI、IIは、それぞれ80%～100%の子どもが楽しく行えた学習と50%～80%の子どもが楽しく行えた学習内容を表している。

この表は、項目に主体性・自己決定、自然・社会の体験の項目があることに特徴があるだろう。

4. 時間割、個別指導の時間の指導形態について

（1）週の時間割

これらの学習内容を週の時間割・日課にどう組むかは大事なことである。その例を表3に載せる。この時間割は、私たちが実際に行ったものを少し変えてある。私た

表3 時間割の例（小学部2，3年）

	月	火	水	木	金
1	個別学習				
2	朝の会				
3	遊び	歌・お話	運動	音楽	散歩
4	給食				
5	自立活動	生活		自立活動	

ちが実際に行った時間割・日課は、病院併設の分教室であったため、給食が週1回であったり、午後から登校したりするなど特殊な時間割・日課となっている部分があった。通学制養護学校の小学部低学年の一般的な時間割に移して提示した。

小学部2年または3年で週23コマとした場合、個別指導5，朝の会5，給食5，自立活動2，遊び1，歌・お話1，音楽1，運動1，散歩1，生活1となる。個別による学習（個別学習，給食，自立活動）とグループ学習の割合は、12対11であり、個別指導が約54%となっている。

これは、個別のニーズに対応することと子どもの個性を尊重すること（その子の好きなこと，好きなやり方で成長する仕方を中心に）を教育の理念にしているため、個別学習を5コマ設けているためである。

なお、個別学習の時間の指導体制は、次のように行っていた。

（2）個別学習の指導形態，学習内容

1）2003年度の個別学習の内容は、8名の児童の場合次の通りであった。

児童名 主な学習内容

- A 絵本，トイレ，絵本
- B 絵本，トイレ，絵本
- C 絵本，トイレ，リラクセーション
- D 日課表作り，トイレ
- E 伏臥位，リラクセーション，拘縮防止，手の感覚の明確化，ゆったり1：1で話しかける
- F リラクセーション，コミュニケーション，1：1のでしっかり関わる
- G 遊具遊び（トランポリン）
- H 遊具遊び（おもちゃ），リラクセーション

2）指導形態（2003年度の場合）

教員：児童 1：1，1：2，一部1：3

子どもの分け方は、1：1 D，G，F，H 1：2 E，C（一部1：3），A（一部1：3），B（一部1：3）であった。一部1：3の指導は、1コマ35分の中、約15分間行った。

5. おわりに

この10年間私が考えてきた重度の障害をもつ子どもたちに必要な学習内容、この10年間に自立活動中心の教育

課程の学級で、私が行ったか体験した学習内容の中で、子どもたちにとって必要度の高いかつ子どもたちがよく興味を持ち多くの子どもが楽しく行った内容を表としてまとめた。

各教育現場の先生方にこの学習内容表を参考にさせていただき、担当している子どもたちにより適切でよりよい教育を行うことに少しでも役立つならば幸いに思います。

なお、表中の具体的な学習内容の中、自立活動，歌・お話，遊びなどには本校の古山勝，音楽，歌・お話には黒鳥由里子，音楽には加藤裕美子の各先生方が行った内容が多く入っている。先生方には、内容表に載せることを快く了解していただき感謝しています。

6. 参考文献

- 井上和美（2003）：重度の障害をもつ子どもの自立活動指導（その9）－日本における重度の障害をもつ子どもたちの個別指導計画の作成－，筑波大学附属桐が丘養護学校研究紀要，39，177-192
- 井上和美（1997）：養護学校における養護・訓練のあり方，Ⅱ 重度・重複障害児の養護・訓練指導（その3）－養護・訓練中心の子どもの発達の構造と指導内容・教育課程，筑波大学附属桐が丘養護学校研究紀要，32，149-158
- 井上和美（2002）：障害の重い子の自立活動指導（その8）－日本における重度の障害をもつ子どもたちの個別指導計画の作成，筑波大学附属桐が丘養護学校研究紀要，38，179-189
- 井上和美（2002）：適切なアセスメントによる個別指導計画に基づいたA君の健康支援，養護学校の教育と展望，125，24-31.
- 井上和美（1998）：養護学校における養護・訓練のあり方，Ⅱ 重度・重複障害児の養護・訓練指導（その5）－健康指導中心の教育課程における目標設定の方法，筑波大学附属桐が丘養護学校研究紀要，34，153-161
- 徳島県立阿南養護学校（2000）：個別の指導計画作成の手引き
- ユネスコ（1996）：ユネスコがめざす教育，落合俊郎他訳，田研出版
- 日浦美智江（1997）：朋はみんなの青春ステージ，ミネルヴァ書房
- 日浦美智江（1997）：重い障害のある人の自立生活支援について，発達障害研究，19，3，219-226.
- 成田滋（1999）：アメリカの個別教育計画と情報活用の展開，文教資料協会
- 落合俊郎他（1996）：世界の特殊教育，明治図書
- 落合俊郎他（1997）：世界の特殊教育の新動向，日本精神薄弱者福祉連盟，日本文化科学社